

つき
●津付ダム建設事業の概要

【目的】
①二級河川気仙川及び大股川の洪水調節
(治水安全度 1/70)

【施設諸元】
◆津付ダム
・位置：岩手県気仙郡住田町
・形式：重力式コンクリートダム（流水型）
・総貯水容量：5,600,000m³
 治水容量：5,350,000m³
 堆砂容量：250,000m³
・堤高：48.6m
・堤頂長：165.0m
・堤体積：105,000m³

【事業費・工期・進捗状況】
・事業費：141億円
 (残事業費：70.8億円)
・工期：平成35年度
・執行済額：70.2億円 (昭和56年度～平成25年度)
 (事業進捗率：49.8%)

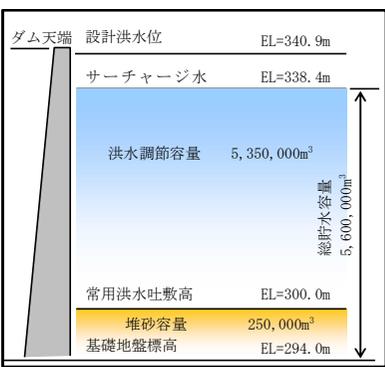
【事業経緯】

年度	経緯
昭和56年度	実施計画調査に着手
平成11年度	河川整備基本方針及び河川整備計画策定
平成12年度	津付ダム建設事業(多目的ダム)として採択
平成15年度	利水(工業用水)の取止めが決定
平成16年度	大規模事業評価専門委員会において審議「要検討(見直し継続)」
平成17年度	津付ダム建設に伴う損失補償協定書調印 岩手県環境影響評価条例に準じて環境影響評価書を公告、縦覧
平成21年度	大規模事業評価専門委員会において審議「要検討(事業継続)」
平成22年度	津付ダム検証に係る検討を実施 東日本大震災発生
平成23～24年度	津波により被災した気仙川下流域の復旧復興に合わせ治水計画を見直し
平成25～26年度	大規模事業評価専門委員会において審議「要検討(中止)」 津付ダム建設事業中止として県の対応方針を決定

【位置図】



【ダム貯水容量配分図】



【計画概要図】



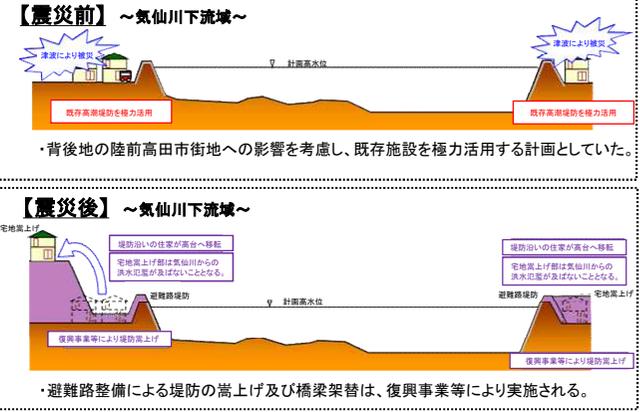
●社会情勢の変化等

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により被災した気仙川下流域では、現在、津波対策や被災市街地復興土地区画整理事業等による宅地嵩上げ、国道等の整備等、復旧復興に向けた新しいまちづくりへの取組が進められており、これらの取組みにより、気仙川沿いの人や生活拠点が大きく変化することとなる。

●治水対策案の立案について

①洪水調節について
[現行計画]～河川整備計画～
津付ダムを建設し、治水基準点島部において概ね30年に1回程度の確率の降雨で発生する流量1,460m³/sを1,350m³/sに低減する。(治水安全度1/30)

震災による河床の地盤沈下や津波対策としての避難路整備による堤防の嵩上げ・道路橋の架替など復旧・復興計画を踏まえ、気仙川全体の治水計画を見直した結果、現行計画の「ダム+河川改修案」に対し、「河川改修単独案」による治水対策が経済的に優位となった。



●県の対応方針

◎総合的な評価
・東日本大震災津波を受け、気仙川下流域で進められている復旧復興への新しいまちづくりに合わせ、気仙川全体で治水計画を見直した結果、現行計画の「ダム+河川改修案」に対し、「河川改修単独案」による治水対策が経済的である。
◎結論
・「河川改修単独案」が現行計画より優位であると判断し、津付ダム建設事業は中止する。